

国語科年間指導計画【2年古典探究】

■単位数	4
■使用教科書（出版社）	高等学校 精選 古典探究(第一学習者)

<p>■目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的・的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---

<p>■内容</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き言葉を豊かにすること。</p> <p>イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。</p> <p>ウ 古典の文の成分の順序や関係、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。</p> <p>(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。</p> <p>イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。</p> <p>ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉で成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。</p> <p>エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。</p> <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>A 読むこと</p> <p>ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。</p> <p>イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。</p> <p>ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。</p> <p>エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。</p> <p>オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。</p> <p>ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>
---

■評価の観点とその趣旨	<p>(1) 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>
-------------	---

月	単元名	知識及び技能								思考力、判断力、表現力等								言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	配当 予定 時数		
		(1)				(2)				読むこと													
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク						
4	イントロダクション																						1
	構成や展開を的確に捉える		●				●				●									作品の内容や形式について話し合う	古式部内侍が大江山の歌の事	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6
5	内容を的確に捉える	●									●								内容についてまとめる	知音	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
	背景を踏まえながら内容を解釈する						●							●					背景と内容の関わりについて話し合う	背水之陣	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
6	構成や展開を的確に捉える		●								●								和歌と展開について考える	伊勢物語(初冠) 大和物語(嫉妬)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	9	
	現代との違いを探る						●								●				先人の考えをもとに現代の防災についてまとめる	方丈記(安元の大火)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
7	様々なテーマに対して自分に考えを広げる						●								●				詩の内容を解釈してまとめる	古今和歌集	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
9	表現の特色について評価する	●												●					表現の効果について評価する	源氏物語(光君誕生)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
	解釈をもとに作品の価値について考察する								●						●				価値についてグループで考える	源氏物語(若紫)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
10	自分の知見と結び付け、考えを深める										●				●				詩の内容を解釈して発表する	漢詩	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
	古典作品を基に、自分の考えを広げる						●								●				現代と平安と比較をする	枕草子	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	6	
11	書き手の意図を捉えて内容を解釈する										●				●				作者が伝えたいことを考える	史記(鴻門之会)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	7	
	多面的な視点から評価する								●						●				人物の視点に合わせて作品を評価する	史記(四面楚歌)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	7	
12	書き手の意図を捉えて内容を解釈する						●								●				書き手の状況を踏まえ、内容をまとめる	雑説	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
1	表現に注意して内容を的確に捉える														●				表現の工夫を話し合う	平家物語	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	10	
	自分の知見と結び付け、考えを深める										●				●				自分の経験との関係性をまとめる	蜻蛉日記	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
2	先人のものの見方、考え方に親しむ														●				主張を吟味して、自分の意見にまとめる	孟子、老子、荘子、韓非子	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
	我が国の言語文化について自分の考えを広げる						●								●				古典作品の特徴を分析する	更級日記	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	8	
3	振り返り																						1
	単元数	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	1	2						配当予定時数合計 127

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	公共	2	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
高等学校 公共(帝国書院)	テーマ別資料 公共2026(東京法令出版) 高等学校 公共ノート(帝国書院)

<b>科目の目標</b> 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
①知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
②思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断すると同時に、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③主体的に学習に取り組む態度	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>小テスト</li> <li>振り返りの記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題、レポートなどの記述内容</li> <li>グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み</li> </ul>

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第1部 わたしたちがつくる社会	第1節 青年期と社会参加 現代社会、青年期、悩み、ジェンダー、学び、社会参画とキャリア	現代の社会が抱える課題等についての知識を習得し、その活用する方法を身に付けている。	○		
		第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	現代社会や、青年期、宗教について考察し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
5	第1章 社会の中の私たち	宗教、日本思想、日本の伝統と文化	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
6	第2章 思想から学ぶべきもの	第1節 倫理的な見方・考え方	社会と人間に関わる思想についての知識を理解し身に付けている。	○		
		古代ギリシヤ、古代中国、近代西洋、現代の思想	先哲の考え方を活用して具体的な事例についての判断を行い、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			公共的な空間での人間の在り方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○

7	第3章 私たちの社会の基本原則	第1節 社会の基本原則と憲法の考え方 近代立憲主義、日本国憲法(平等権、自由権、社会権、新しい人権)、人権の国際化	近代立憲主義の考え方の基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身に付けている。	○		
			最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
8			公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現実社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
9	第2部 社会のしくみと諸課題 第1章 私たちと法	第1節 法の意義と司法参加 社会規範と法、生活と法、契約、消費者の権利、司法制度	所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの資料を活用して、法的な権利と責任に関する知識を身に付けている。	○		
			契約や司法制度について判断し、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
10			多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
11	第2章 私たちと政治	第1節 民主社会と政治参加 政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政、地方自治、政党政治、選挙制度	国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解した上で、政治参加の権利(参政権)と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身に付けている。	○		
			国会・地方自治について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、自らの意見や主張をわかりやすく表現している。		○	
			政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に社会に関わろうとしている。			○
12	第3章 私たちと経済	第1節 市場経済のしくみ 経済市場、市場機構、企業、金融、財政、経済変動 第2節 豊かな社会の実現	経済のしくみと、企業・政府の役割、日本経済の変遷とその課題に関する知識を身に付けている。	○		
			市場経済の考え方をを用いて、市場機構や分業のあり方を理解し、その内容をわかりやすく表現することができる。		○	
			市場経済の機能と限界に関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
1	第3章 私たちと経済	第3節 国際経済の動向と格差の是正 国際経済のしくみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、経済格差	経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身に付けている。	○		
			新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれに生じる課題について説明することができる。		○	
			経済のグローバル化と国際社会における貧困や格差の問題などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。			○
2	第3部 持続可能な社会の実現に向けて		これまでの学習で身に付けた知識を活用し、自らの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。	○		
			課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づき自ら考え判断したことを整理して、レポート等の形でわかりやすく表現している。		○	
			第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家、社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	2	2年	

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 化学基礎(数研出版)	三訂版 リードLightノート化学基礎(数研出版)

科目の目標
<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を以下の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究する態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化について理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質やその変化に関して課題を発見し、物質の結合の変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化に関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	化学と人間生活	化学と物質 化学の特徴 物質の分離・生成 単体と化合物 熱運動と物質の三態	単体や化合物、粒子の熱運動の関係について理解し、物質の分離や生成方法について実験を通じて身につけている。	○		
			日常にある物質を単体や化合物と判断したり、熱運動と温度の関係を表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
6 7	物質の構成	物質の構成粒子 原子の構造 電子配置と周期表	原子の構造やその構成粒子について理解し、周期表と関連付けて考えることができる。	○		
			各元素の性質について、周期表の元素の位置関係から説明することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
9 10	物質の構成	物質と化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	イオン結合、共有結合、金属結合の違いについて理解することができる。	○		
			結合の違いにより各物質にどのような違いが生じるのかを思考し、表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
11 12	物質の変化とその利用	物質と化学反応式 物質質量 化学反応式	原子量、物質質量について理解し、化学反応の量的関係について求めることができる。	○		
			物質質量が意味することについて説明を行うことができ、化学反応に関する量の関係について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
1 2	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	酸と塩基の関係、酸化と還元について理解し、実験を通じて身につけることができる。	○		
			中和における量的関係や酸化還元反応における電子の授受を思考し、減少について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	2年	2学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

### 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

### 評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

### 評価方法

- ・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等)
- ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等)
- ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

### 学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		ゴール型	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○				
自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○			

6	水泳	平泳ぎ	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	<input type="radio"/>		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		<input type="radio"/>	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			<input type="radio"/>
7	体育理論	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習	技能と体力の関係や高めるときに気を付けるべき点を説明できる。	<input type="radio"/>		
			技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。		<input type="radio"/>	
			練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。			<input type="radio"/>
9 10	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>		
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 11	球技	ベースボール型	身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	<input type="radio"/>		
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	<input type="radio"/>		
	ダンス	現代的なリズムのダンス	バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		<input type="radio"/>	
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			<input type="radio"/>
12	体育理論	効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。	<input type="radio"/>		
			目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。		<input type="radio"/>	
			スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、せおの発生原因と予防方法を説明できる。			<input type="radio"/>
			課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。			<input type="radio"/>
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	<input type="radio"/>		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。			<input type="radio"/>
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。		<input type="radio"/>	
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		<input type="radio"/>	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			<input type="radio"/>
2	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。	<input type="radio"/>		
			「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。		<input type="radio"/>	
			国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。		<input type="radio"/>	
			豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。			<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	2年	2学年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育(大修館書店)	現代高等保健体育ノート(大修館書店) 図説現代高等保健体育(大修館書店)

<b>科目の目標</b> 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通じる健康について、理解を深めること。</li> <li>・健康を支える環境づくりについて、理解を深めること。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それら表現することができる。</li> <li>・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それら表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。</li> <li>・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。</li> </ul>

<b>評価方法</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の点検、確認、分析(定期テスト、小テスト、スキルテスト、学習プリント・ノート等)</li> <li>・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等)</li> <li>・取組状況の観察、確認(課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)</li> </ul>

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康	ライフステージと健康の関連やライフステージで活用できる社会からの支援について説明できる。		○	
		2 思春期と健康	思春期における体の変化や心の発達にかかわって起こる問題について説明できる。	○		
		3 性意識と性行動の選択	性意識の男女差や性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて説明できる。		○	○
		4 妊娠・出産と健康	妊娠出産の過程における健康問題や母子保健サービスについて説明できる。	○	○	
		5 避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法や人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○		
		6 結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係や、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について説明できる。	○	○	
		7 中高年期と健康	加齢にともなう心身の変化や高齢社会に必要な社会的な取り組みについて説明できる。			○
7 9	働くことと健康	8 働くことと健康	働くことの意義と健康とのかわりや働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	○		
		9 労働災害と健康	労働災害の種類とその原因や労働災害を防止するために必要なことをあげて説明できる。		○	
		10 健康的な職業生活	職場が行う健康に関する取り組みや余暇を積極的に取ることの意義について説明できる。		○	
9 10 11	健康を支える環境づくり	1 大気汚染と健康	大気汚染の原因と健康への影響や大気に関わる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。		○	
		2 水質汚濁、土壌汚染と健康	水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。			○
		3 環境と健康にかかわる対策	環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について説明できる。			○
		4 ごみの処理と上下水道の整備	ゴミの処理の現場や上下水道の仕組みと健康について課題を説明できる。			○
		5 食品の安全性	食品の安全性と健康との関わりについて説明できる。	○		
		6 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。	○	○	
12 1 2	健康を支える環境づくり	7 保健サービスとその活用	保健行政の役割や保険サービスの活用について例をあげて説明できる。	○	○	
		8 医療サービスとその活用	わが国における医療保険の仕組みや様々な医療機関の役割について説明できる。			○
		9 医薬品の制度とその活用	医薬品の正しい使用方や安全性を守る取り組みについて説明できる。		○	
		10 さまざまな保健活動や社会的対策	国際機関、民間機関等の保健活動について例をあげて説明できる。	○		
		11 健康に関する環境づくりと社会参加	健康の保持、増進のための環境作りについて説明できる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅡ	5	2年	総合・美術コース

使用教科書	副教材等
Power On English Communication Ⅱ	Power On English Communication Ⅱ WORKBOOK Database 3300 基本英単語・熟語

<b>科目の目標</b> (1)聞くこと 日常的な話題について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的な話題について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。</li> <li>聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。</li> <li>これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
<b>評価方法</b>	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Play Me, I'm Yours	Lesson 1	ストリートピアノについてのレポートを聞き、概要を理解することができる。	○		
			友人が興味を持てるように、読んだり聞いたりしたことを伝えることができる。	○		○
5	Ethical Fashion	Lesson 2	エシカルファッションについての文章を読み、ファストファッションとの違いを読み取ることができる。	○		
			自分の好きなファッションやコーディネートについて、理由と共に友人に紹介することができる。		○	○
6	One for All, All for One	Lesson 3	ラグビー選手のラジオインタビューを聞き、問いに対する答えを整理しながら聞き取ることができる。	○	○	
			自分の好きなスポーツ選手について、調べたことを発表することができる。		○	○
7	Vending Machine	Lesson 4	海外のウェブサイトを見て、概要を読み取ることができる。	○	○	
			自分の住む地域に設置する自動販売機を紹介するポスターを作成し、発表することができる。		○	○
9	Braille Neue	Lesson 5	ブレイルノイエの開発者のインタビューを聞き、開発の経緯を聞き取ることができる。	○		
			校内でのユニバーサルデザインの導入の具体案を提案することができる。		○	○
10	New Banknotes	Lesson 6	新紙幣についての記事を読み、目的や理由を明確に読み取ることができる。	○	○	
			新紙幣をデザインを考え、それについてグループ内で発表し合うことができる。	○		○
11	Some Secrets about Colors	Lesson 7	色が人々に与える影響について、それぞれの色の効果の違いを読み取ることができる。	○	○	
			色の心理的効果を考慮して、部屋の内装についてアドバイスをし合うことができる。		○	○
12	Powdered Natto	Lesson 8	納豆パウダーについて、その活用方法や利点、可能性を聞き取ることができる。	○	○	
			納豆パウダーについて、セールスポイントを明確にして実演販売を演じることができる。		○	○
1	Flying after Her Dreams	Lesson 9	ベシー・コールマンの経歴、人物像、夢などについて、詳細を読み取ることができる。	○	○	
			インタビュー活動で聞かれる質問と回答を考え、お互いにインタビューすることができる。		○	○
2	To Work or Not to Work?	Lesson 10	ロボットと仕事についての論説文を読み、内容を整理しながら読み取ることができる。	○	○	
			自分の今後の進路について、具体的な内容を発表し、質問し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
情報	情報 I	2	2年	2学年

使用教科書	副教材等
日本文教出版 情報 I 図解と実習(情 I 711)図解編	

<p>科目の目標</p> <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
② 思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価方法	
① 知識・技能	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
② 思考・判断・表現	期末・学年末テスト、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
③ 主体的に学習に取り組む態度	実習への取り組み、小テスト、課題・成果物・実習での発表内容
上記による総合的な評価を行う。	

学習計画						
学期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1	図解編 第1章 情報社会とわたしたち 第1節 情報社会を見渡してみよう	① SNSの普及と情報モラル ② 情報社会とは ③ 大切な情報を守るために ④ 情報社会を支える法律 ⑤ 著作権に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSの利便性について具体的に理解している。</li> <li>SNSの長所・短所について例をあげて説明できる。</li> <li>情報社会とは何かについて理解している。</li> <li>情報社会のさまざまな課題に対して主体的に解決策を考えようとしている。</li> <li>情報セキュリティを高めるためにどのような方法があるか理解している。</li> <li>個人で取り組む情報セキュリティ対策について理解している。</li> <li>個人情報や知的財産権、産業財産権は法律によって扱い方が定められることを理解している。</li> <li>著作権に関する法律を理解して、著作物を主体的に利用しようとしている。</li> </ul>	○	○	○
	実習編 section2	⑥ 情報通信技術で変わる社会 STEP1 プレーンストーミングと	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信技術によって豊かになった社会を持続するためにどうすればよいか</li> <li>出た意見の整理や取り組むべき問題の決定に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○	○	○
1	図解編 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第1節 メディアとコミュニケーション	① コミュニケーションとメディアの変遷 ② コミュニケーション手段の多様化 ③ インターネット上のコミュニケーションの特性 ④ ソーシャルメディアの活用と注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのメディアの特徴について理解している。</li> <li>コミュニケーションサービスの特徴を考え、説明することができる。</li> <li>実際の場面を想定して、どのコミュニケーション手段を選択すべきかを主体的に考えようとしている。</li> <li>ソーシャルメディアの活用方法と注意点を理解している。</li> </ul>	○	○	○
	第2節 情報デザイン	① デザインの基本を見て ② 情報デザイン ③ 情報を伝えるさまざま	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を伝えるときに大切なデザインの基本について理解している。</li> <li>身近にある情報デザインの例を抽象化、可視化、構造化に分類することができる。</li> <li>身近なポスターやWebサイトから、情報を伝えるための工夫を見つけようとして</li> </ul>	○	○	○



<p>実習編 section8 STEP1 家庭内 LANを設計しよう</p>	<p>⑤ 情報セキュリティの重 要性 家庭内LANを設計しよう</p>	<p>・情報セキュリティを確保するための技術を知り、情報通信ネットワークを適切 に利用しようとしている。 ・ネットワーク環境について、機器の接続やセキュリティの確認すべきポイント について理解している。</p>	○	○
<p>第2節情報システ ムとデータベース</p>	<p>①情報サービスとそれを 支える情報システム ② データベース</p>	<p>・情報サービスで解決できる課題について、自分の考えを深めようとしている。 ・データベース管理システムについて理解している。</p>	○	○
<p>実習編 section9 1 「sAccess」を使っ てデータベースを 操作してみよう 第3節データの活 用</p>	<p>③ データの形式とデー タモデル 1 「sAccess」を使っ てデータベースを 操作して</p>	<p>・データベースが必要となる例やその構築例について自分の考えを深めよ うとしている。 ・データベース学習システムを操作して、データの分析に取り組もうとしている。</p>	○	○
<p>実習編 section10 STEP1 数値デー タを分析しよう</p>	<p>① データの収集 ② データの分析 データを統計的に分析しよ</p>	<p>・データの性質とその特徴について理解している。 ・データの性質とその特徴について理解している。 ・集計した数値データやテキストデータを分析し、考察している。 ・データの収集・分析に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○
			○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅱ	2	2年	総合進学コース2年

使用教科書	副教材等
MOUSA2 教育芸術社	高校生のための音楽研究ノート

<b>科目の目標</b> 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
---

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

<b>評価方法</b>	
ア 取り組みの観点	イ 演奏、作品の内容
ウ ワークシート等への記述内容	エ 提出物の内容
アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう	表現 歌唱 p.10.12.13.16	・曲想と音楽の構造や、歌詞との関わり、及びその関わりから生みだされる表現上の効果の理解を深める。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、他者との調和を意識しなら個性豊かに、歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	
	リズムののってアンサンブルをしよう	表現 器楽 p.20.23.56	曲想と音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解を深める。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに、器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
6	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	表現 器楽 p.52.54	・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解を深める。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能及び他者との調和を意識し、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	鑑賞 p.99.100.101	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深める。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。	○	○	○
9	日本の伝統音楽と郷土について知ろう	鑑賞 表現 歌唱 p.70.72.73	・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深める。 ・音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる ・長唄の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう	表現 器楽 p.74.75.76	・曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに、器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
11	変奏や編曲に挑戦しよう	表現 創作 p.34.35	・音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲する技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	日本や諸外国(ヨーロッパ)の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	表現 歌唱 鑑賞 p.24.25.26.34.43.46.107	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解する。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫することができる。	○	○	○
1	世界の諸民族の音楽を知ろう(ヨーロッパ・アフリカ・アジア・南アメリカを含む)	鑑賞 表現 器楽 p.80	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、その他の芸術との関わりについて理解を深める。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠についてについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	映画音楽を鑑賞しよう	鑑賞 p.6	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深める。			
2	音色の特徴を生かしながら、構成を工夫して創作しよう	表現 創作 p.58	・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深める。 ・反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくり出す技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫することができる。	○	○	○
	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	表現 器楽 p.31	・曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができる。			

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道Ⅱ	2	2年	総合進学コース2年

使用教科書	副教材等
書Ⅱ 光村図書	

<p><b>科目の目標</b></p> <p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書の伝統と文化と深く関る資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
---

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	書の表現方法や形式、多様性などについて理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけて表している。
② 思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統・文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
<b>評価方法</b>	
ワークシートの記入内容、鑑賞カードの記入内容、発表の内容、作品・授業に取り組む姿勢などを基に、総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	漢字の書	泰山刻石 石鼓文	各書体の典型的な字形と用筆について理解し、技法を習得する。各古典の書風を比較し、表現効果を考え取る。漢字の書体の変遷について理解を深める。蘭亭序を硬筆で全臨する。	○	○	
5	隷書	乙瑛碑 曹全碑		○	○	
6	草書	十七帖 書譜		○	○	
7	行書	集王聖教序	感興や意図に応じて素材を選び、個性的に表現する。	○		○
9	楷書	始平公造像記		○		○
10	創作	座右の銘を書こう	平仮名とは系統の異なる片仮名の成立と字源について理解を深める。高野切第一種の書風の特徴を捉え、臨書する。		○	○
11	仮名の書 古筆に学ぶ	高野切第一種		○		○
12	創作	百人一首を書こう	創作を通して、充実感や喜びを味わう。		○	○
1	漢字仮名交じりの書	古典の書風を生かそう	漢字仮名交じりの文の成立について、理解を深める。古典の書風を生かすことで、多様な表現が生まれることを理解する。文字の大きさ、漢字の書体(楷書・行書)、仮名の種類(平仮名・片仮名)について工夫し、調和させて表現することができる。	○	○	○
2	古典・名著に学ぶ	イメージを書で表現する	書の現代的意義について理解を深める。		○	○
	創作					○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術Ⅱ	2	2年	総合進学コース2年

使用教科書	副教材等
美術2（光村図書）	プリント

<b>科目の目標</b> 美術の幅広い創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
<b>評価方法</b>	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	人物を描く	A表現 絵画 p.8	対象となる人物との関係や受ける印象をもとに発想を広げ、工夫して描くことができる。			
5			人体プロポーションを含む構造を理解し美しく動勢ある人物を描くことができる。	○	○	○
6	心の中の風景	A表現 絵画 p.20	心に浮かんだ風景を形や色、構図を工夫して描く。			
			対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	○	○	○
7	ミッドセンチュリーデザイン	B鑑賞 デザイン p.42	1940～1960年代、アメリカを中心に発祥した優れた家具やインテリアデザインの特徴を学び20世紀のデザインの傾向を知る。	○		○
9	抽象への誘い	B鑑賞 A表現 絵画 p.26	抽象絵画とそれらを描いた作家について知り、色や構図を参考に自分なりの抽象表現で絵画作品を制作する。			
	ゲルハルト・リヒター マーク・ロスコ		ゲルハルト・リヒターやマーク・ロスコの作品を通し抽象画の成り立ち、作者の意図と創造的工夫などを理解し、創造につなげられる。	○	○	○
10						
11	素材と向き合う 真鍮ペーパーナイフ作り。	A表現 デザイン 金工 p.28	素材を生かし、生活の中にあるデザインをほどこす。真鍮素材を削り出し、ペーパーナイフを作る。			
			機能とデザイン的美しさを兼ね備えた造形を作り出すことができる。	○	○	○
1	和紙と墨	A表現 B鑑賞	唐代に成立したとされる墨で表現される墨絵を学ぶ、日本、中国、			
2	(日本及びアジア 地域で和紙に墨 で描かれた絵画 を手本に描く。)	絵画(日本、中国、韓国 の水墨画)	韓国の作品を鑑賞し、特に中国からの画題の影響に着目し描く。 美術Ⅰで学んだ墨で描く表現をベースに主題と背景の関係、墨の濃淡の幅と使用箇所を工夫して描ける。	○	○	○
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	彫刻	2	2年	美術コース2年生

使用教科書	副教材等
	プリント及びビデオ

<b>科目の目標</b> 彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現の特性について理解を深めるとともに、専門的な技術を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。
---

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	彫刻表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めている。(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や用具などを工夫して独創的・創造的に表すことができている。(技能)
② 思考・判断・表現	彫刻表現におけるそれぞれの専門的な知識や技能などを活用し、創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現したり鑑賞したりして、絵画表現の可能性を追求しようとしている。

<b>評価方法</b>
ア・学習活動への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	手のスケッチ 塑造での手の制作。	ANTATOMY for the artist	手の造形を把握しスケッチを描ける。粘土について、固まり方などの材料の性質や、形態や大きさ、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高いという特性を生かして、主題を明確に把握しながら、制作方法を十分検討し、創意工夫や試行錯誤を繰り返しつつ、表現を追求することができる。	○	○	○
6 7	自刻像	REAL BONES 骨格と機能美	粘土と石膏を用いて、首像を作る。 主として使用する粘土や石膏などについて、可塑性や固まり方などの材料の性質や、形態や大きさ、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高いという特性を生かして、主題を明確に把握しながら、制作方法を十分検討し、創意工夫や試行錯誤を繰り返しつつ、表現を追求することができる。	○	○	○
9 10	流木アート	「骨から見る生物の進化」 ジャン・パティスト・ド・パ ナフィーユ	西伊豆の海岸で流木を拾い、骨格などを意識し生き生きとした作品を作る。自然に削られた素材に造形的美を感じつつ自己のイメージする造形の量感や動勢を把握し表現することができる。 従来の表現形式や表現方法などにとらわれない多様な表現活動を工夫し、個性を生かしながら表現を追求することができる。	○	○	○
11	鑑賞(彫造の表現 船越桂の彫刻表現に学ぶ。)	DVD「船越桂 never equal funakoshi kastura」	彫刻家・船越桂の作品と制作過程を鑑賞することで、主として使用する木材について木目や硬さなどの材料の性質と木彫技法の特性を理解する。作品の特徴や表現技法の工夫等に気付き、作品のよさや美しさを感じ取り、作者の意図や心情について考え、感性を磨き、見方や感じ方を深めることができる。	○		○
12	彫造 アイデアスケッチ		制作するモチーフを決め、デッサンする。 今後制作する、木彫の形態と動勢を把握し描けている。	○	○	○
1 2 3	彫造(木彫制作)	「はじめての木彫り動物 手習い帖」はしもとみお	使用する木材の木目や硬さなどの材料の性質と、付け足したりやり直したりすることがしにくいという技法の特性を理解することができる。発想の段階においてアイデアスケッチや簡単な形を作りながら主題を生成し、表現の意図を明確に把握しながら、完成に至る確かな計画と見通しをもって制作を進め、表現を追求することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	絵画	2	2年	美術コース2年

使用教科書	副教材等
	プリント

<b>科目の目標</b>
絵画に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現の形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 絵画表現の可能性を追究する態度を養う。

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	絵画表現におけるそれぞれの表現形式の特性について理解を深めている。(知識) 発想や構想したことなどを基に、様々な表現方法や材料や用具などを工夫して独創的・創造的にあらわすことができる。(技能)
② 思考・判断・表現	絵画表現において、専門的な知識や技能を活用し創造的に発想し構想を練ったり、作品などに対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に表現したり鑑賞したりして、絵画表現の可能性を追求しようとしている。

<b>評価方法</b>
ア・学習活動への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	双獅祭(文化祭) ポスター原画	絵画 イラストレーション	テーマに沿った主題を自由に表すことができる特性を理解するとともに、線の美しさ、画面のバランスや動きを表すことのできる表現方法や技法を習得することができる。	○	○	○
6 7	松崎町スケッチ・ コンクールに挑戦	水彩画 松崎町スケッチ・コンクール 入賞作品を参考	透明水彩絵の具及び不透明水彩絵の具のそれぞれの特性と制作の手順の違いや表現効果について理解し、紙質や地肌、絵肌などを生かした表現技法を工夫することができる。	○	○	○
9	ルネッサンス絵画	鑑賞 テンペラ画制作 画集「レオナルド・ダ・ヴィンチ」集英社	ヴェロッキオとレオナルド・ダ・ヴィンチ作「キリストの洗礼」を題材にテンペラ画の伝統技法とともに油彩を組み合わせた複合的表現を知り、その技法を学ぶ。	○	○	○
11 12 1 2 3	F50号 油彩画制作	油彩画	油彩画の幅広い表現方法、絵具や多様な画溶液などの材料、筆やナイフなどの用具のもつ特性について理解し、自らの主題に応じた表現方法を追求することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	素描	4	2年	美術コース2年生

使用教科書	副教材等
新版 基礎から身につく はじめてのデッサン	プリント等

<b>科目の目標</b>
素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 (2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 造形表現を追求する態度を養う。

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	素描に適した表現材料の特性を生かせるよう理解を深めている。(知識) 対象を深く観察したことを基に表現を工夫して的確に表すことができる。(技能)
② 思考・判断・表現	深い観察を通して、対象のイメージや空間を把握することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	主体的に対象を見つめ考察を深めたり、表現材料などを研究し取り入れたりするなど、造形表現を追究しようとしている。

<b>評価方法</b>
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	幾何形体	24p～31p	基本的な形態を把握し、パース正確に描き出すことができると同時に光と影を把握しグラデーションとして表現できる。	○	○	○
5	静物基礎	34p～39p	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ描くことができる。	○	○	○
6	鑑賞 マティス ロダン	画集「マチスのデッサン集」(岩崎美術社) 画集「ロダンの水彩とデッサン展」(静岡県立美術館編集)	マティスとロダンのデッサンを取り上げ、それぞれの作品の主題や表現の意図、描き方の工夫や表現の材料活用、効果等について考察する。	○		○
7	表現材料 木炭デッサン	「木炭で描く」(アトリエ出版)	石膏像(胸像)を木炭で描く、材料や用具についての特性を理解し、表現の意図に沿って工夫しながら、表現技法を身につけることができる。	○	○	○
9	スケッチ(風景)		対象の形態や空間、よさや美しさを端的に把握したり、大まかにとらえたりして工夫しながら表す技能を高めることができる。	○	○	○
10	静物 複合体	108p～	身近なものを対象として、深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめ、主体的に向き合い、イメージや空間、形態などを把握し、質感などの表し方を工夫し表現できる。	○	○	○
11	人物デッサン		クローキー(速写)をすることによって、人体のプロポーションを瞬時に把握し、人体の均衡、律動、比率を描きだすことができる。	○	○	○
12	クローキー(速写)	180p～				
1	自画像	128p～	自画像を描くことにより、自己を深く観察するとともに人体頭部の均衡、律動、比例など人体の美的秩序を確かめ、主体的に対象に向きあい描きだすことができる。	○	○	○
2						
3						